

明日を大地

北海道新篠津高等養護学校

学校だより

令和4年度第1号 4月28日発行

Tel 0126-58-3280

HP <http://www.shinko.hokkaido-c.ed.jp/>

令和4年度のスタートにあたって

北海道新篠津高等養護学校 久 富 正 規

4月は、新しい環境での生活がスタートする時なので希望と期待が交錯する時でもあります。昨年度も新型コロナウイルス感染症の影響によって様々な制限の中、教育活動を進めてまいりましたが、今年度も引き続き感染防止に努めながらの教育活動が続きます。

今年度も4月8日には、着任式、始業式、12日には、第30回入学式を挙行し、37名の1年生を迎え、2年生48名、3年生41名を合わせ126名（うち、寄宿舎入舎生110名）で教育活動をスタートしました。令和4年度は、学校、寄宿舎、事務を合わせ教職員103名で、「チーム新篠津」として更なる教育活動の充実・推進に向けて取り組んでまいります。生徒一人一人の成長と本校の30年目の歩みがより確かなものになるよう、保護者の皆様をはじめ地域の皆様の御理解と御支援、御協力をよろしくお願いいたします。



今号は、新年度の始まりの号ですので、令和4年度の方針などを次に紹介いたします。

令和4年度(2022年度) 北海道新篠津高等養護学校「学校経営の構造」

職業学科を設置する道立知的障がい特別支援学校高等部のミッション：卒業後の職業自立（就職）に必要な専門的な知識や技能を習得すること



学校教育目標 校訓	『豊かな心と つよい体をもって たくましく自立する 生徒を育てる』 「すすんでやりぬく人」	※平成5年4月制定
--------------	--	-----------

目指す学校像	目指す生徒像	目指す教職員像
①「新篠津」の学びが理解され、生徒・保護者に「選ばれる」学校 ②生徒が安心して、安全に学習・生活できる学校 ③地域・保護者と連携・協働し生徒を育てる学校 ④教職員が働きやすく、個々の職能が発揮できる学校	①自らを律し、感謝の心や感動する心を持ち、他を思いやり、協調できる生徒（『豊かな心』） ②「生活し、働く」ために必要な健康な心と体をもった生徒（『つよい体』） ③自己の能力を発揮し、主体的に学び続ける生徒（『たくましく自立』） ④自ら考え決定・行動し、最後まで全うする生徒（『すすんでやりぬく人』）	①生徒一人一人の人格と個性を尊重し、専門性、実践的指導力を生かして、適切な指導と必要な支援を行う教職員 ②社会の変化やキャリアステージに応じ、自己の資質能力を高める教職員 ③同僚性・協働性を発揮し、学校課題の解決を積極的に進める教職員集団

教育方針	経営方針	「保護者・地域」協働の方針
①本校や地域の実態及び時代の変化を踏まえた、特色ある教育課程の計画的、組織的な編成・実施及び評価を推進する。 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と評価改善に取り組む。 ③多様な生徒の実態及び複雑化する問題要因を踏まえた組織的・機能的な生徒指導を実践する。 ④自立を見据えたキャリア教育と生徒が主体的に進路選択できる進路指導を推進する。 ⑤社会的な事象を踏まえた防災・安全教育及び体育・健康に関する指導を推進する。 ⑥自立と社会参加に向けた基本的な生活習慣や態度、社会性を身に付け、青年期の心理的特徴を踏まえた人格形成を図る寄宿舎生活の充実を図る。	①教職員の情報共有と信頼・協力関係を基盤に、チームとして学校経営に積極的に参画する意識を高め、教育活動と経営活動が一体化した無理、無駄のない組織運営を推進する。 ②教職員の実践的指導力、専門性の向上と学力の向上及び教育課程の充実を図るため、組織的な実践研究・研修を実施する。 ③生徒の生命・健康・人権を守るための予防的対応による学校の危機管理能力の向上を図る取組を推進する。 ④生徒一人一人が学びやすく、生活しやすい環境・条件整備を図る。 ⑤教職員の働き方を改善し、協働性、同僚性を発揮することができる職場環境・条件整備を図る。 ⑥学校予算、団体会計等の緊急性、必要性、優先性に基づいた計画的、効果的な執行と適正な事務処理を実施する。	①「学校運営協議会」（コミュニティ・スクール）の効果的な運営体制と地域協働のための基盤整備を図る。 ②特別支援教育のセンター的な役割を果たすとともに、地域、関係機関等と連携、協力して、石狩・南空知圏域の特別支援教育の充実・発展を図る。 ③生徒指導上の問題について、保護者・関係機関等と連携し解決するための協力関係を強化する。 ④PTA・地域等と連携した危機管理対応の仕組みを構築する。

令和4年度の重点

- 「新篠津の学び」の理解及び実施と検証
- 服務規律遵守を基本とした職員の専門性向上
- 組織としての「協働・協力」、「改善」の取組の実施

指導の重点	経営の重点	「保護者・地域」協働の重点
①生きる力を身に付けるため、教育課程の理解に基づいた学習指導の実施 ②ICTを効果的に活用した授業のアップデートと検証 ③地域の資源を活用した体験的学習及び実践的、社会貢献的学習の実施 ④SNSに関する生徒間トラブル、不登校など、生徒指導上の新たな問題に対する開発的・予防的・個別別的アプローチの実施 ⑤「個別の指導計画」、「個別の生活支援シート」に基づく、学舎連携による指導・支援の実施	①「教育課程」・「授業（評価）」の改善及び専門性向上に向けた全教職員の研修・研究活動の実施 ②『新篠津高等養護学校における働き方改革「アクションプラン」』を踏まえた取組と生徒に向き合う時間確保の観点による検証の実施検証の実施 ③「開校30周年」（令和4年（2022年））の推進 ④「新型コロナウイルス感染症」対策等、危機管理に係る取組の学舎一体での推進	①学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の効果的な運営の推進 ②PTA（保護者）と学校課題の共有と解決策の検討の実施 ③「新篠津村」をアピールできる教育活動、部活動等の推進 ④ホームページ、学校便り、校内掲示等による情報発信・内容の充実

研究主題

各部門で「重点実践事項」の作成・実施・評価・改善（PDCAを意識した実践）

◇校長：校務全体に関する責任・権限 ◇副校長 ◇教頭：「職員室」経営・「倉庫室」経営 ◇事務長：「学校事務経営」統括
＝生徒が安心して、安全に学習・生活できる「環境・条件整備」／教職員が働きやすく、個々の職能が発揮できる「環境・条件整備」＝



教職員の学校経営への積極的な参画、教職員個々のマネジメント力・専門性・実践的指導力・同僚性／協働性の発揮

入学式

1 学年主任

佐藤 輝明

優しい日差しと暖かな春の日の中、第 30 回入学式が挙行されました。緊張の表情を浮かべた 37 名の新入生が入学を許可され、新篠津高等養護学校の生徒としての新たな一歩を踏み出しました。保護者や教職員、そして、残念ながら会場には入れず、モニター越しで先輩たちが見守る中、新入生は一つ一つ丁寧な所作で最後まで式に臨みました。また、新入生代表の芦澤李笙さんは「社会人として学校を巣立つ日まで、自分自身のペースでしっかりと歩んでいきます。」と堂々たる態度で挨拶をしてくれました。3 年間の学校生活は山あり谷ありの日々になりますが、このときの思いや気持ちを忘れずに歩んでくれることを期待しています。



今年度も多くの新入生が寄宿舍生活を始め、大きな環境の変化や寂しさなどから涙を流したり、わずかな時間しか眠れなかった生徒もいたようです。また、通学生は慣れない通学路と公共交通機



関の利用に不安を抱きながら登校しているのだろうと推察します。今、新入生一人一人が抱えている心の葛藤は成長において重要とされています。乗り越え方は様々ですが、自分のペースで、そして、共に努力する友達や支えてくれる方々を励みに乗り越えてほしいと願っています。また、これからも様々な経験や葛藤を抱き、一つ一つを乗り越えながら「社会人として巣立つ日まで」成長していく姿を見続けていきたいと思います。

図書室より

昔から、本を読むことによって、多くの文に触れることで自分の言いたいことをわかりやすく伝えたり、自分で書きたい文を作る力をつけることができると言われています。

さらに、たくさんの本を読むことによって、言葉の表現が豊かになり、人とのコミュニケーション力が向上するのも、本を読むメリット、良い点と言えます。

良い本をたくさん取りそろえて、お待ちしております！



《編集後記》

春の訪れとともに、今年度も新しい仲間がたくさん新篠津にやってきました。引き続き感染症対策をしっかりと行いながら、職員一同誠心誠意教育活動に取り組んで参りたいと思います。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

